

2 研究の実際

(1) 研究に用いた理論と実践に向けた考え方

ア 現行学習指導要領における歴史の総合的な考察について

現行の学習指導要領解説では、「日本史B」改訂の要点の中で、「歴史の総合的な考察」について次のように記しています。⁽¹⁾

「日本史B」の学習において大切なことは、決して個別・詳細な知識を数多く記憶することではなく、それぞれの時代はどのような特色をもっていると考えられるのか、そしてそれがどのような変遷を遂げて現在に至っているのかを生徒自身が考察して大きな視点でとらえ、納得と理解を踏まえた自分自身の言葉で明確に表現できることである。歴史の大観的な理解のためには、主に空間軸にかかわる各時代の特色の総合的な考察と、主に時間軸にかかわる時代の変遷の総合的な考察と重視されなければならない。

「文部科学省『高等学校学習指導要領解説地理歴史編』平成21年12月 p.7より引用」

また、「日本史B」における歴史的な見方や考え方の習得については、歴史を考察し表現する学習活動として各大項目中に、次の表1の通り、「歴史と資料」、「歴史の解釈」、「歴史の説明」、「歴史の論述」の項目とその内容が設定されています。

表1 「日本史B」における歴史を考察し表現する学習活動

項目名	内容
「歴史と資料」	歴史資料から歴史的事象を読み取る技能、資料に基づいて歴史が叙述されていることへの理解、歴史への関心、文化財保護の重要性に関わる理解を育てる。
「歴史の解釈」	歴史事象の推移や変化、因果関係に関わる思考力、歴史の展開における諸事象の意味や意義を解釈する思考力・判断力などを育てる。
「歴史の説明」	歴史の解釈の多様性に関わる理解、解釈を成り立たせている根拠や論理に関わる思考力・判断力、根拠をもとに考えを筋道を立てて説明する思考力・表現力を育てる。
「歴史の論述」	それまでに習得した内容を活用して適切な主題を設定する技能や思考力、設定した主題を踏まえて適切な資料を収集・選択する技能、収集した資料を活用して主題を探究する思考力・判断力、探究した成果を根拠をもとに筋道を立てて論述する思考力・表現力などを育てる。

これらの学習活動を通して「資料を活用して歴史を考察したりその結果を表現したりする技能を段階的に高める」としています。特に、本研究で授業実践に関わる「歴史の解釈」の内容について、現行の学習指導要領解説では、次のように示されています。⁽²⁾

歴史資料を含む諸資料を活用して、歴史的事象の推移や変化、相互の因果関係を考察するなどの活動を通して、歴史の展開における諸事象の意味や意義を解釈させる。

「文部科学省『高等学校学習指導要領解説地理歴史編』平成21年12月 p.66より引用」

以上のことから、歴史的事象の推移や変化、相互の因果関係を考察するなどの活動を通して、歴史の展開における諸事象の意味や意義を解釈させることで、「空間軸にかかわる各時代の特色」「時間軸にかかわる時代の変遷」について総合的に考察する力を育成したいと考えます。

イ 知識と知識の関連付けについて

次期学習指導要領改訂に向けての「論点整理」において、知識について次のように示されています。⁽³⁾

身に付けるべき知識に関しても、個別の事実に関する知識と、社会の中で汎用的に使うことのできる概念等に関する知識とに構造化されるという視点が重要である。個々の事実に関する知識を習得することだけが学習の最終的な目的ではなく、新たに獲得した知識が既存の知識と関連付けられたり組み合わせられたりしていく過程で、様々な場面で活用される基本的な概念等として体系化されながら身に付いていくということが重要である。

「文部科学省HP 教育課程企画特別部会 論点整理 平成27年8月26日 p.8より引用」

また、同「論点整理」において示された育成すべき資質・能力の「三つの柱」のうち、「知っていること・できることをどう使うか（思考力・判断力・表現力等）」の内、知識と思考の関係について、次のように示されています。⁽⁴⁾

問題発見・解決に必要な情報を収集・蓄積するとともに、既存の知識に加え、必要となる新たな知識・技能を獲得し、知識・技能を適切に組み合わせ、それらを活用しながら問題を解決していくために必要となる思考。

「文部科学省HP 教育課程企画特別部会 論点整理 平成27年8月26日 p.11より引用」

このことから、知識と知識を関連付けたり組み合わせられたりする中で、概念等として体系化することや必要な知識・技能が何かを判断できる力の育成が求められていると考えます。

ウ 本研究における歴史的思考力とは

「空間軸」または「時間軸」を踏まえて「歴史的事象の推移や変化、相互の因果関係を考察する」ための問いについて、必要な知識を精選し、関連付けながら総合的に考察する力を「歴史的思考力」とします。

(2) 実態調査とその分析結果

ア 事前の意識調査より

必要な知識を精選し、関連付けながら総合的に考察する力を育成するための授業を構想するに当たって、授業を実施するクラスにおいて意識調査（n=19）を行いました。研究に特に深く関わる次の3つの質問に焦点を当てて分析しました。

「日本史に関する出来事の意味を考えることは好きだ。」（質問 11）

「日本史について、知識と知識同士を結び付けて考えることができる。」（質問 16）

「日本史の学習で、設問に応じてどの知識が必要かを判断ができる。」（質問 17）

回答方法はいずれも「とてもあてはまる」「ややあてはまる」「あまりあてはまらない」「全くあてはまらない」から選択させました。意識調査の結果を図1に示します。

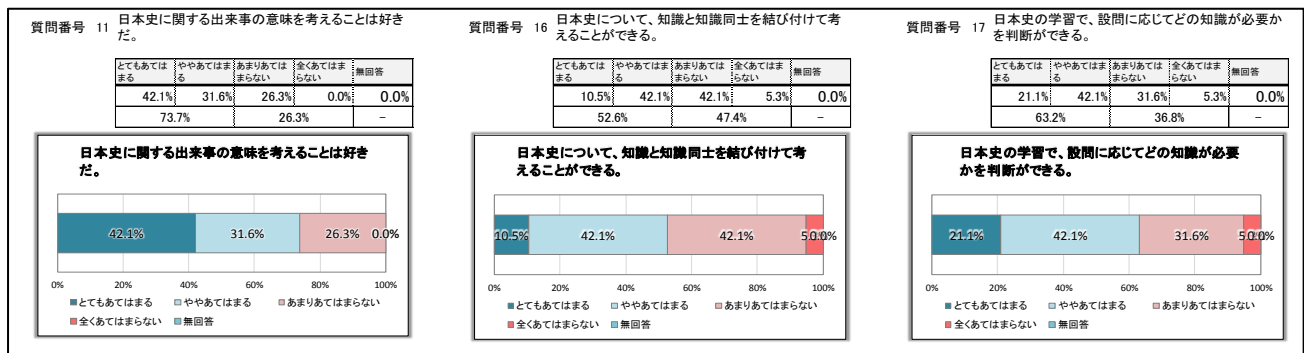


図1 意識調査の結果

図1の意識調査の結果から、クラス全体でみると5割強の生徒が、知識と知識を関連付けて考えることを苦手にしており、4割弱の生徒が、設問に応えるために必要な知識の精選を苦手に行っていることがうかがえます。

また、生徒個別の現状をクロス集計で確認したところ、「日本史に関する出来事の意味を考えることは好きだ」と他2つの各質問とのクロス集計は図2の通りで、生徒個別に見ても「歴史的出来事の意味を考えることが好きだが、どの知識を活用すればよいのか自信がない」傾向があるというクラスの実態が分かりました。

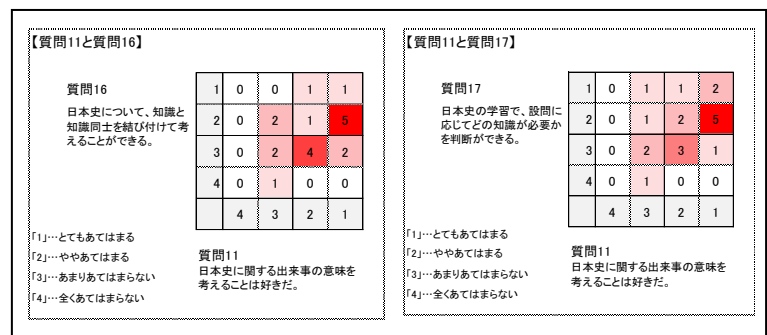


図2 意識調査のクロス集計

イ 事前の調査問題と意識調査の比較・分析から

授業の事前に以下の記述式の調査問題を実施し、その結果（表2）と意識調査の結果（図1）と比較し、分析を行いました。

【設問】紀元前1世紀の日本列島における小国分立の背景について、以下の用語を用いて説明しなさい。

「農耕社会」「鉄器」「環濠集落」「墳丘」※使用した用語に、下線を引くこと。

【評価「B」の解答例】

紀元前に水稲耕作と金属器が伝わり、その後日本列島において農耕社会が成立した。水稲耕作において必要であった日当たりの良い土地と水利、及び農耕によって得られた余剰生産物をめぐり争いが起こるようになると、鉄器を用いたり、防御のために周囲に堀を巡らせた環濠集落も見られたりするようになった。そうした争いのなかでムラの統合が進み、集積した富で死後墳丘をもつ墓に埋葬されるような首長が治める小国が分立するようになった。

表2 調査問題の結果

【事前の調査問題の評価結果】

評価	判定基準	カウント
A	Bに加え、前時代の狩猟採集社会との変化を踏まえて記述している。	0
B	用語を用いながら「余剰生産物をめぐり争い」を踏まえて論理的に記述している。	2
C1	Bを満たさない。（「余剰生産物…」を記述している。用語を用いて説明している。等）	8
C2	C1を満たさない。	7
C3	無解答	2

(イ) 「時間軸」を踏まえて時代の変遷を総合的に考察するためのワークシートの工夫

図6のとおり、同心円状の中心に「核となる知識」を、その横軸に「補完する知識」を配置させます。縦軸は前後関係など時代の変遷を踏まえて、上部を前の時代の知識、下部に後の時代の知識を配置させ、時代の変遷を考察させます。

イ 歴史の展開における諸事象の意味や意義を解釈させるための問いの設定

図5、図6のワークシートを用いて単元の学習内容を振り返らせるために、知識を精選させ、関連付けさせることで、歴史の展開における諸事象の意味や意義を解釈させるための単元のまとめにおける問い（「本時の問い」）を設定します。

今回の授業実践における「本時の問い」について、授業実践1では「7世紀末～8世紀の律令国家が中央集権的政治体制といえるのはなぜか」を授業実践2では、「7世紀末～8世紀初頭の律令国家確立期の国司と、10世紀以降の国司の共通点・相違点は何か」を設定しました。

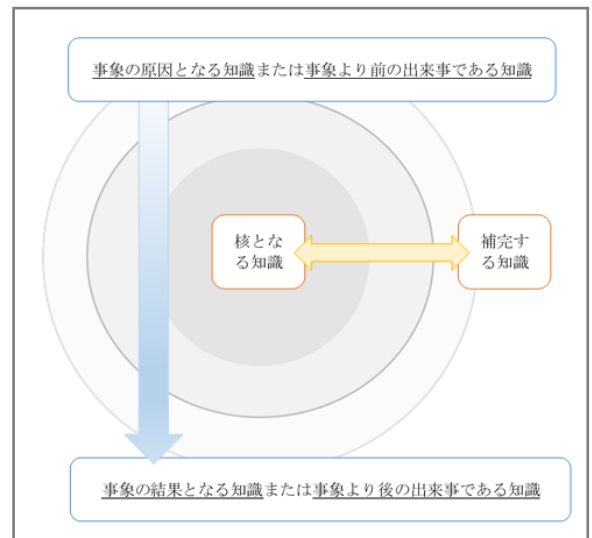


図6 時代の展開を総合的に考察するワークシート

《引用文献》

- (1) 文部科学省 『高等学校学習指導要領解説地理歴史編』 平成21年12月 p. 7
- (2) 文部科学省 『高等学校学習指導要領解説地理歴史編』 平成21年12月 p. 66
- (3) 文部科学省HP 『教育課程企画特別部会 論点整理』 平成27年8月 p. 8
http://www.mext.go.jp/component/b_menu/shingi/toushin/_icsFiles/afieldfile/2015/12/11/1361110.pdf
- (4) 文部科学省HP 『教育課程企画特別部会 論点整理』 平成27年8月 p. 11
http://www.mext.go.jp/component/b_menu/shingi/toushin/_icsFiles/afieldfile/2015/12/11/1361110.pdf